

引継ぎのポイント

被災地における災害VCの運営支援をスムーズに行うためには、次々に被災地に入る運営支援者同士が上手にバトンをつないでいく「連携プレー」が必要になります。

① 被災地の状況

支援の時期によって、被災地の状況は変化します。当初は、けが人や犠牲者、行方不明者などの人命に関する情報やライフライン復旧状況などが刻々と変化します。その後は、自宅での生活再開状況や緊急支援ニーズに関すること、その後、個別ニーズの高まりや災害関連制度の施行関連の動きや、孤立地域、仮設住宅の設置・入居状況など様々です。

被災者の立場に立った災害VC活動を基本に、必要と思われる事項、特筆すべき事項があれば、今後の展開をイメージしてまとめておきましょう。

② 被災地の平時の状況

派遣期間中には、非日常の状況ばかりではなく、被災前の地域の様子、日頃の地域福祉活動やボランティア・市民活動の取り組み状況などを知る機会があります。災害ボランティアによる支援を必要とする人たちの平時の生活課題についても見えてくる場合があります。

住民と自治体、住民と社協、住民の地域福祉やボランティア・市民活動への参加状況、産業・経済状況など、復興を見据えた支援活動にとっては大変重要な情報です。

後任者が、地域の全体像を理解するためにも引き継ぎましょう。

③ 災害VCの状況

- ・どのような組織体制、班編成で行われているか。どのような団体が加わり、役割分担が行われているか。組織体制の特徴は何か。
- ・被災地内外の運営者のキーパーソンは誰で、どのような役割を担い、どういう動きをしているか。どう関わればよいか。
- ・現在、どのようなボランティア活動が行われているか。前任者から見て、活動上の課題は何か。
- ・後任者に伝えておいた方がよい重要な決定事項および決定の経緯。
- ・今後の主なスケジュール。
- ・ニーズ変化と今後の活動展開の想定。
- ・特筆すべき事項